

千 歳 向陽台サッカー少年団代表

文科省スポーツ 優良団体表彰 長年の活動に評価

受賞を山口市長へ報告



賞状を手にする井田さん(中央)と稲垣さん(右)

千歳で活動している向陽台サッカー少年団の代表者2人が10日、市役所を訪れ、山口幸太郎市長に文部科学省が選定した「2016年度生涯スポーツ優良団体表彰」の受賞を報告した。向陽台地区で1987年創立のチームが大輪の賞に輝いた。

今年度道内5団体栄誉

団長井田正裕さん(66)と副団長稲垣哲夫さん(同)が表敬し、10月7日に東京都千代田区内であった表彰式で受け取った賞状と記念盾を見せながら懇談した。

井田代表は「サッカーは体を存分に使う。将来何をやるかは別に、低学年が取り組むスポーツに向いています」と語り、山口市長は「指導者の熱意が実りましたね」とねぎらった。

今回の受賞団体は道内で5団体あり、過去に千歳関係のサッカーでは2012年度の祝梅サッカー少年団に次ぐ栄誉。向陽台サッカー少年団は11人制全道級の大会では過去2度の3位となったほか、市や町内会の行事参加に加え、団として行う登山会、キャンプなどを通じて保護者と一体で児童の健全育成に取り組んできた。16期生にはJ2、FC

町田セルビアドFの松本 大(りょうた)選手(25)がいて団員たちの憧れだ。14年に移籍する前まではコンサドーレ札幌所属。泉沢小時代に同少年団入りして大活躍。向陽台一中―札幌西陵高―東洋大を経てプロ選手になった。現在の団員は幼稚園児から小学生までの36人で、シーズン中は主に向陽台地区でチームとして借り、整備してきた専用練習場で技量を向上。年々代刻みで行われる各大会にチャレンジしている。

創立当初から指導スタッフ・役員を務めてきた井田さんは「長い間、地域の協力あってこそ受賞。うれしいです」。稲垣さんは「体を鍛えて強く生きる青少年の育成」という活動理念が認められました」と感慨深い様子だった。